

# 学位プログラム DP レビュー

2022 年度 公共社会学科

## 1. 現状の説明

### ①授業実施評価レポート

成績評価アンケートは、全体的に良好な結果であり、本学科の DP に沿った授業が実施されていると評価できる。全学教務・共通教育部会からは、人数は少ないものの他学年や他項目に比べると、1年生の「妥当性が不足している科目」と「透明性が不足している科目」について、「そのような科目が一つ二つあった」の割合が相対的に高いという指摘があり、検討を求められた。

成績分布については、全体の学科別成績分布では一定のバランスが取れており、成績に「不可」が多い科目はなく、成績 S が多い科目も 2020 年度より減少するなど大きな問題はなかった。全学教務・共通教育部会からは、受講者数 10 名を超える科目において成績 S が受講者の 3 分の 2 を超えていた 2 科目について、評価方法や成績評価方針の確認が求められた。また、受講者数が少ない科目については、時間割上の配置を設定上可能な範囲で工夫するなどの対応を行ってきたが、受講生数が増加しない科目もあった。これらへの対応方策については後述のとおりである。

### ②DP アンケート

DP アンケートの結果は、5 点満点での平均値が全項目で 4 以上となっており、全 13 項目の平均値も 4.2 であることから、4 年間の学習の成果について学生から一定の評価が得られており、本学科の DP を満たすことができていると評価できる。全学教務・共通教育部会からは、相対的に高い値となっている項目が評価される一方で、「地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった」、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」の項目が他項目と比べると相対的に低い値となっていることについて、指摘があった。これらへの対応方策については後述のとおりである。

### ③進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路としては、53名の卒業生のうちの51名の就職希望者について、就職率94.1%となっている。資格については、公共社会学科では中学校教諭一種免許状（社会）取得者が6名、高等学校教諭一種免許状（公民）取得者が6名となっている。留年生は5名であり、過去2年と比較して増加しているが、うち3名は留学に伴う休学が原因であり、それを除くと過去2年と変化はない。一方で、退学者は3年次2名、4年次1名と過去2年の1名、0名に比べて若干増加した。進路・生活支援部会からは、従来と異なる傾向として、他学科においても2、3年生の退学者が多く、新型コロナウイルス感染症による授業形態の変更や生活状況の変化等を要因として、授業参加が滞っていた（一部は休学）学生が、令和3年度に退学するに至った結果と考えられるとの指摘があった。

48名の就職先は「民間企業・団体等」が66.7%、「官公庁等」が22.9%、「教員」が8.3%、「福祉施設（機関・団体）」が2.1%となっている。近年は就職先として「官公庁等」や「教員」の比率が増加する傾向にあるが、このことは、「民間企業・団体等」への就職とあわせて、本学科の「現代社会の多様な課題に対応するため、地域社会と国際共生に焦点をあて、公共性に根ざした社会問題解決能力に秀でた人材を育成すること」という教育研究上の目的と一致しているとして評価できる。

## 2. 2021年度対応プランの結果

2021年度は、以下の3点について計画し対応した。

①成績評価について、新学期当初のオリエンテーションにて、大学での成績評価のあり方や目的についての説明を実施した結果、成績評価アンケートでは良好な回答結果を継続して得られた。

②科目ごとの成績分布の差異については、コースの担当教員を中心に再度シラバスの組立てや作成方針、成績評価方針について確認した。その結果、成績Sが多い科目が2020年度より減少する点で改善が見られた。受講者数の少ない科目については、オリエンテーションで学生に対して科目紹介と履修奨励を行った。また、時間割上の配置も受講者数に影響を与えられとされるが、時間割設定を工夫してもその時限に入れざるを得ない科目もあった。その結果、受講者数が少ない科目も継続してあった。2022年度入学生から適用の新カリキュラム上でのこれらの科目の受講者数を点検する必要があると考える。

③の卒業生の進路については、民間企業との関わりの強化や就職活動のための情報提供の体制整備を求める全学的な対応と合わせて、学科においても学生の意見を反映させながら、就職支援に係る複数の

プログラムを継続して運営することができた。

### 3. 今回の課題と対応プラン

①のうち、成績評価については、入学直後の1年生に対して、オリエンテーションの機会やそれぞれの授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的について、他学年よりも丁寧に説明を行うことを継続して努める。成績分布については、コース担当者会議において、情報共有と検討を行った結果、問題はないことを確認した。全体的には良好な結果が得られていることから、今後もコースにおいて、全体的な成績分布についての情報共有と点検を行い、コースの担当教員を中心に各自のシラバスの組立てや作成方針、成績評価方針についての点検を継続する。受講者数の少ない科目については、2022年度入学生からの新カリキュラムが開始することから、まずはこれらの科目の受講者数について点検し、科目の位置づけや内容についての検討を行っていく。また、これらの科目について、時間割上の配置を設定可能な範囲で工夫するとともに、オリエンテーションなどで科目に関する紹介と履修の奨励を行う予定である。

②については、講義、調査実習や演習のなかで、地域課題や社会問題の理解にくわえ、例えば、対応策に関する具体的事例を取り上げる機会、また学生自身が課題や問題への対応策に関する考察、説明や活動を行う機会を増やすことなどが考えられる。これらについて、担当教員間で情報共有を図り、個々の科目担当者が適宜改善に向けた取組みを進めるという形で対応していく。

③については、進路、資格試験では、本学科のDPに関して一定以上の達成状況にあると考えられる。民間企業との関わり強化や就職活動のための情報提供の体制整備を求める全学的な対応と合わせて、学科においても就職支援に係る複数のプログラムの運営を継続する。留年、退学状況については、GPAが低い学生に対する面談、必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行っていく。

### 4. DP 達成状況のまとめ

以上、本学位について、成績評価、学生による評価、進路の状況などから判断すると、DP全体として一定以上の達成状況にあると考えられる。「思考・判断・表現」や「主体性・多様性・協働性」の項目においては課題も見出されることから、それらの項目の強化も視野に入れながら、継続して学位プログラ

ムの運営に努めていくことが求められる。

#### 添付資料

- ・ DP アンケート
- ・ 進路・資格試験・留年・退学状況（資料はこちらをクリック）
- ・ 授業実施評価レポート

## 公共社会学科ディプロマ・ポリシーアンケート結果報告

## 1.ディプロマ・ポリシーアンケートの結果

質問項目	平均値
1. 社会学を中心とする社会科学の専門知識が身についた。	4.3
2. 異なる文化や価値観を、客観的に理解できるようになった。	4.6
3. 地域課題や社会問題を、その歴史的背景や現状の多様性をふまえて理解できるようになった。	4.5
4. 人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識が身についた。	4.3
5. 物事について、根拠をふまえて意見する力がついた。	4.3
6. 物事について、公共性の観点をふまえて考えることができるようになった。	4.1
7. 自分の考え・気持ちを、他者に伝わるよう適切に説明できるようになった。	4.1
8. 地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった。	4.0
9. 目標に向けて自分で考え、主体的に活動できるようになった。	4.1
10. 様々な地域課題や社会問題、または異なる文化・価値観に対して、関心をもつようになった。	4.3
11. 地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった。	4.0
12. 資料やデータを収集する技法が身についた。	4.4
13. 調査研究を行う際に、適切な方法により分析することができるようになった。	4.2
全項目平均値	4.2

## 自由回答

1. 社会学ももちろん勉強になったが、関連領域の幅広いことを学ぶことができてよかった。
2. 自主的に行動を起こせるようになった。
3. 特に、異なる文化についてこれまで知らなかったことを多く学べてよかった。
4. 数学を扱うことができたのは社会に出て役立つと思ったのでよかったです。
5. 少人数での指導もあったので、わからない点などをすぐに聞いたりすることができて良かった。

## 2.結果について

1. 全項目で平均値が4を超えており、13項目の平均値も4.2となっていることから、4年間の学修の成果について、学生からの一定の評価が得られていると考えられます。
2. 異なる文化、価値観、地域課題や社会問題に対する理解について、相対的に高い値が得られています。また、資料やデータを収集する技法の習得についても、相対的に高い値となっています。一方で、「地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった」、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」は、他項目と比べると相対的に低い値となっています。
3. 前項の改善について、講義、調査実習や演習のなかで、以下の機会を増やすことが考えられます。地域課題や社会問題の理解に加え、例えば、対応策に関する具体的事例を取り上げる機会、また学生自身が課題や問題への対応策に関する考察、説明や活動を行う機会を増やすことなどが考えられます。

# 授業実施評価レポート

2022 年度 人間社会学部地域社会コース

## 1.2021 年度の状況

### ①成績評価アンケート

公共社会学科学生を対象とした成績評価アンケートの結果は、「そのような科目がいくつもあった」という回答は0であり、「そのような科目が一つ二つあった」という回答も各学年で多くて1割程度にとどまっており、全体的に良好な回答結果であった。教務共通教育部会から、人数は少ないものの他学年や他項目に比べると、1年生の「妥当性が不足している科目」と「透明性が不足している科目」については、「そのような科目が一つ二つあった」の割合が相対的に高いという指摘があり、検討を求められた。

これを受けて、コース担当者会議で、全体的な回答結果について担当教員間での情報共有と点検を行い、上述のように全体的な良好結果であることから、大きな問題はないことを確認した。くわえて、入学直後の1年生に対して、大学での成績評価のあり方や目的について、オリエンテーションの機会やそれぞれの授業の中で、他学年よりも丁寧に説明を行っていくこととした。

### ②成績分布及び受講者数

成績分布については、全体の学科別成績分布では一定のバランスが取れており、成績に「不可」が多い科目はなく、成績Sが多い科目も2020年度より減少するなど大きな問題はなかった。ただし、受講者数10名を超える科目において成績Sが受講者の3分の2を超えていた2科目について、教務共通教育部会から評価方法や成績評価方針の確認が求められた。これを受けて、コース担当者会議において、情報共有と検討を行った。その結果、非常勤講師担当の1科目については、2022年度から担当教員が交代予定であるため、継続して成績分布を点検することとした。また、もう1科目については、2021年度は他科目との時間割の重複により受講生が例年より少なく、受講意欲が高い学生が集まったため、成績が高い学生が多くなったと考えられ、当該年度のみの一時的な理由であることを確認した。

受講者数が少ない科目については、時間割上の配置を設定上可能な範囲で工夫するなどの対応を行ってきたが、受講生数が増加しない科目もあった。時間割上の配置の工夫の継続とともに、2022年度入学生から適用の新カリキュラムでのこれらの科目の受講者数の点検、科目の位置づけや内容についての検討が必要になると考えている。

### ③その他

公共社会学科では、2022年度入学生からの適用となるカリキュラム見直しを行った（添付資料末尾の公共社会学科専門教育科目カリキュラムマップ・公共社会学科（地域社会コース）カリキュラムツリー 新カリキュラム 参照）。主な目的は、学科の設置目的をカリキュラムとしてより具現化し、2022年度からの高等学校教諭一種免許状（情報）課程設置に伴う科目群の再編に対応するためである。主な変更点として、専門科目を再編し、「基幹科目」、「現代社会課題」領域、「地域社会ネットワーク」領域、「アジア国際共生」領域、「社会調査・情報処理」領域、「関連科目」とした。これまでの「公共社会学基礎論」は、社会学の基礎的な知識に関する「基幹科目」と現代社会の課題を解明する知識やひとの労働・生活に関する「現代社会課題」領域に分けられ、各科目の位置づけを明確にした。また、「社会調査・情報処理」領域の必修科目を増やし、社会調査と情報処理の知識を学生が確実に身につけられるようにした。

## 2.2021年度レポート対応プランの結果

前年度2021年度レポート対応プランを受けて、①成績評価について、新学期当初のオリエンテーションにて、大学での成績評価のあり方や目的についての説明を実施した。その結果、成績評価アンケートの結果で前年度からの良好な回答結果を継続して得られた。

②科目ごとの成績分布の差異については、コースの担当教員を中心に再度シラバスの組立てや作成方針、成績評価方針について確認した。その結果、成績Sが多い科目が2020年度より減少する点で改善が見られた。受講者数の少ない科目については、オリエンテーションで学生に対して科目紹介と履修奨励を行った。また、時間割上の配置も受講者数に影響を与えられが、時間割設定を工夫してもその時限に入れざるを得ない科目もあった。その結果、受講者数が少ない科目も継続してある。2022年度入学生から適用するカリキュラムの見直しを行ったが、新カリキュラム上でのこれらの科目の受講者数を点検する必要があると考える。

## 3.対応プラン

①成績評価については、全体的には良好な結果が得られていることから、今後もコースにおいて、全体的な成績分布についての情報共有と点検を行い、コースの担当教員を中心に各自のシラバスの組立てや作成方針、成績評価方針についての点検を継続する。また、入学直後の1年生に対して、オリエンテーションの機会やそれぞれの授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的について、他学年よりも丁寧に説明を行うことを継続して努める。

②受講者数の少ない科目については、2022年度入学生からの新カリキュラムが開始することから、まずはこれらの科目の受講者数について点検し、科目の位置づけや内容についての検討を行っていく。また、これらの科目について、時間割上の配置を設定可能な範囲で工夫するとともに、オリエンテーションなどで科目に関する紹介と履修の奨励を行う予定である。

#### 添付資料

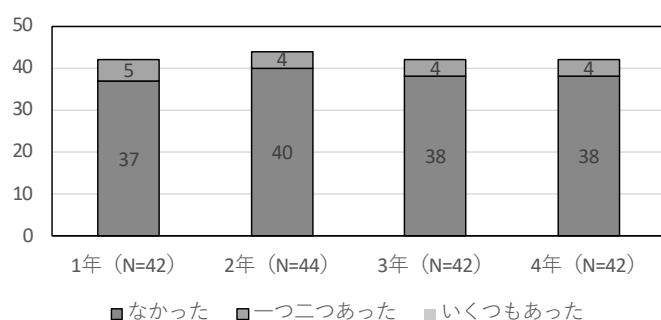
- ・地域社会コース成績評価アンケート結果報告
- ・公共社会学科専門教育科目 受講者数及び成績結果状況報告
- ・公共社会学科専門教育科目カリキュラムマップ・公共社会学科（地域社会コース）カリキュラムツリー 旧カリキュラム・新カリキュラム



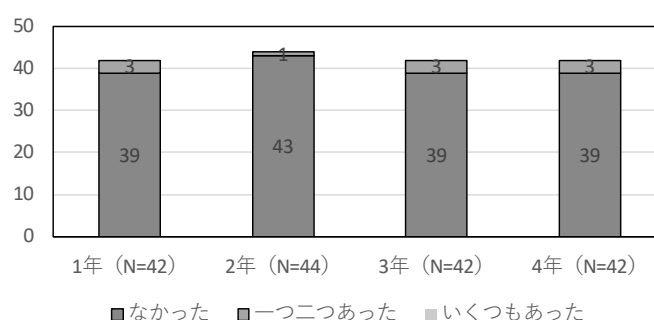
## 地域社会コース成績評価アンケート結果報告

## 1.成績評価アンケートの結果

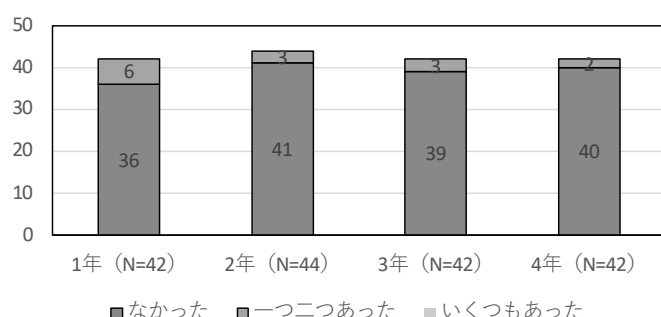
透明性が不足している科目



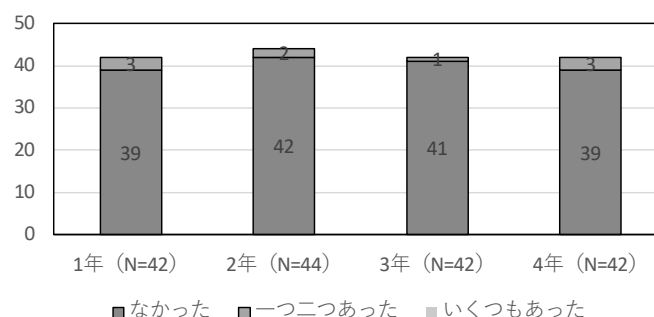
客観性が不足している科目



妥当性が不足している科目



公平性が不足している科目



## 2.結果について

- 成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は0でした。また、「そのような科目が一つ二つあった」という回答も、各学年で多くて1割程度にとどまっており、全体的には良好な回答傾向と評価できます。
- 以上、全体的には良好な回答傾向と評価できますが、1年生の「妥当性が不足している科目」において、「そのような科目が一つ二つあった」の割合が他学年や他項目に比べて相対的に高くなっています。また、1年生の「透明性が不足している科目」についても、「そのような科目が一つ二つあった」の割合が他学年や他項目に比べて相対的に高くなっています。ここから、入学直後の1年生に対して、大学での成績評価のあり方や目的について、他学年よりも丁寧に説明を行うなどの工夫が必要になるものと考えられます。

## 公共社会学科専門教育科目および関連科目 受講者数及び成績結果状況報告

2021年度の公共社会学科専門教育科目および関連科目の各科目の受講者数及び成績結果をお知らせします。

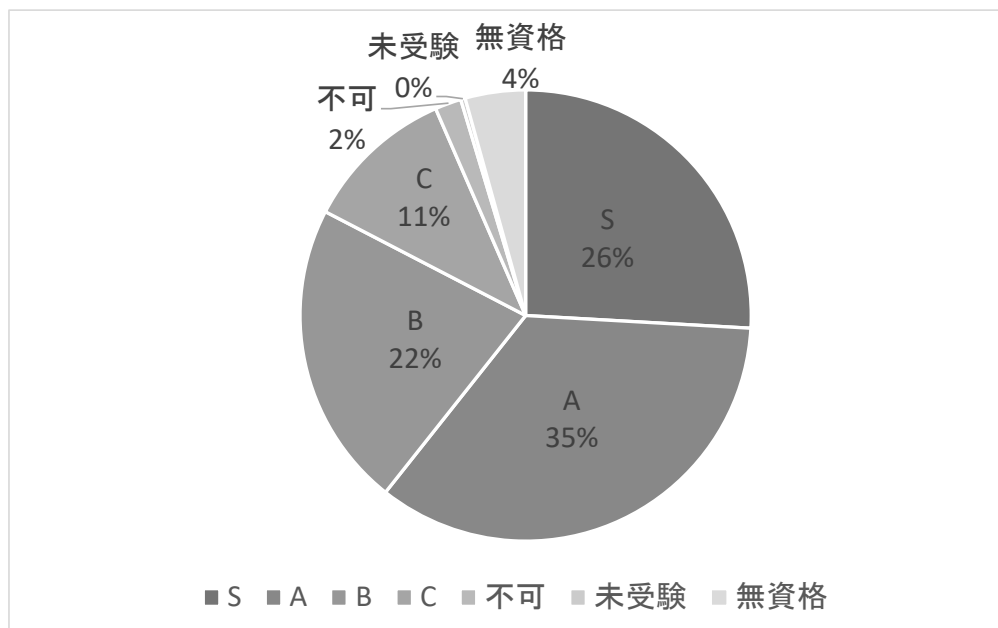
## 結果について

1. 受講者数が5名未満の科目は「地域社会分析法 B」「国際社会学 B」「社会教育論」です。また、「CSR（企業の社会的責任）論」は履修者0でした。科目の必要性や妥当性について確認してください。また多くの受講が望まれる科目である場合、対策等をとられてください。
2. 成績に「不可」が多い科目はありませんでした。
3. 受講者数10名を超える科目において、成績Sが受講者の3分の2を超えていた科目は、「社会学の分析法 A」「国際政治学」でした。評価方法や成績評価方針について確認をお願いします。

※本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合はこれで妥当であることを説明できるようにしてください。改善すべき点が見いだされた場合には、具体的な対策を立てられてください。

(添付資料)

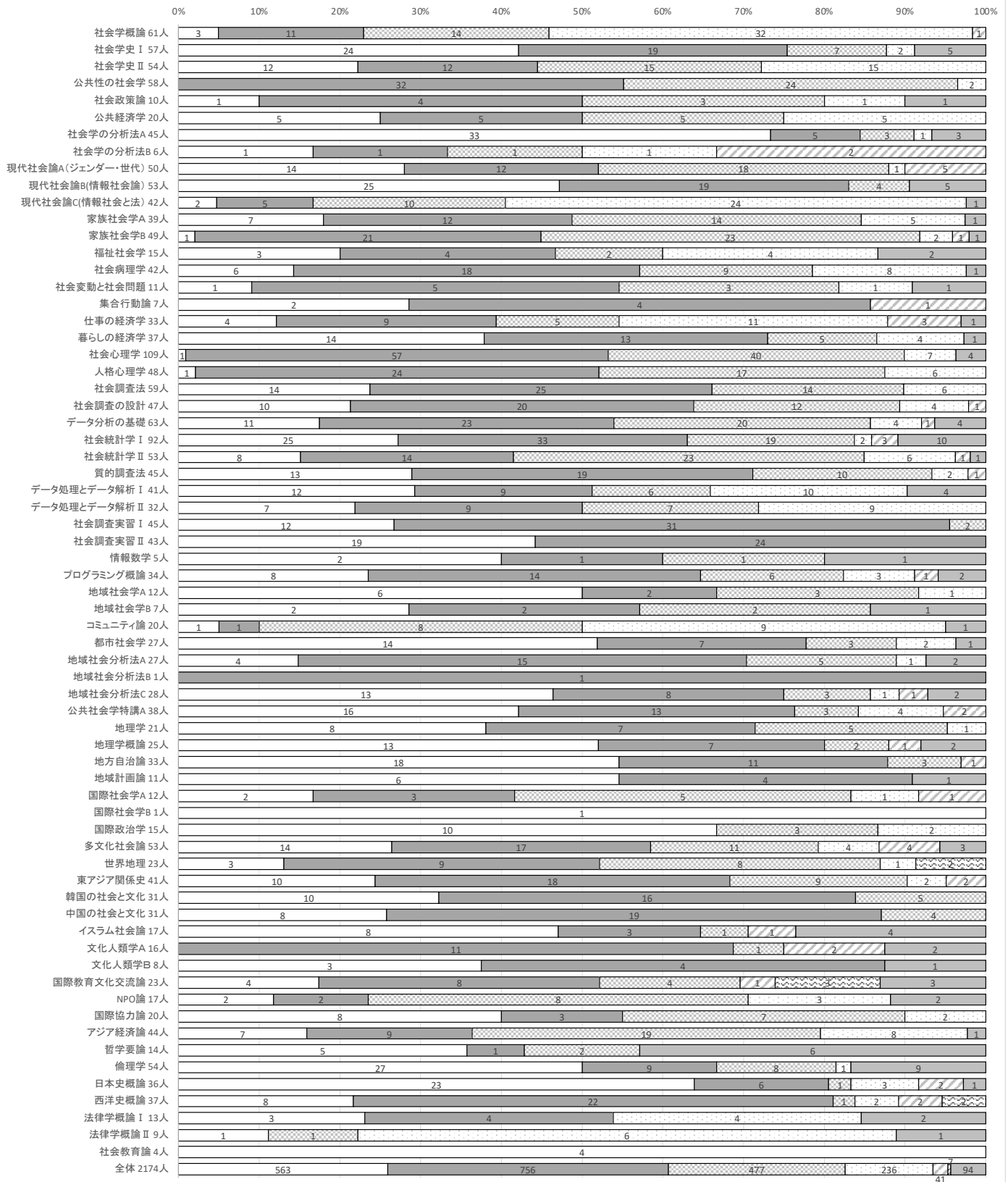
## (1) 学科別成績分布



(2) 各授業の成績分布

各授業の成績分布

○S □A □B □C □不可 □未受験 □無資格



授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期(標準履修年次)				備考	担当教員名	DP1	DP2	DP3	DP4	
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次							
公共社会学基礎論	社会学概論	2	講義	2					佐野麻由子	○		○		
	社会学史Ⅰ	2	講義		2				中村晋介	○				
	社会学史Ⅱ	2	講義		2				中村晋介	○				
	公共性の社会学	2	講義	2					阪井裕一郎		○	○		
	社会政策論	2	講義	2					坂本毅啓(非常勤)	○		○		
	公共経済学	2	講義			2			許 棟翰	○	○	○		
	社会学の分析法A	2	講義		2				小池高史(非常勤)	○		○		
	社会学の分析法B	2	講義			2			柳 永珍(非常勤)	○		○		
	現代社会論A(ジェンダー・世代)	2	講義		2				中村晋介	○				
	現代社会論B(情報社会論)	2	講義		2				阪井俊文(非常勤)	○		○		
	現代社会論C(情報社会と法)	2	講義		2				森脇敦史	○		○		
	家族社会学A	2	講義		2			*1	阪井裕一郎	○		○		
	家族社会学B	2	講義		2				阪井裕一郎	○		○		
	福祉社会学	2	講義			2		*2	福本純子	○		○		
	社会病理学	2	講義		2			*1	堤圭史郎	○		○		
	社会変動と社会問題	2	講義			2		*2	堤圭史郎	○		○		
	集合行動論	2	講義			2			里村和歌子(非常勤)	○		○		
	仕事の経済学	2	講義		2				許 棟翰	○	○	○		
	暮らしの経済学	2	講義		2				許 棟翰	○	○	○		
	CSR(企業の社会的責任)論	2	講義			2			佐藤明史(非常勤)	○		○		
社会心理学	2	講義	2					上野行良						
人格心理学	2	講義	2					上野行良						
社会調査・情報処理	社会調査法	2	講義	2					中村晋介		○	○		
	社会調査の設計	2	講義		2			*1	福本純子		○			
	データ分析の基礎	2	講義	2					坂無 淳		○	○		
	社会統計学Ⅰ	2	講義	2				*1	坂無 淳		○	○		
	社会統計学Ⅱ	2	講義	2					坂無 淳		○	○		
	質的調査法	2	講義	2					中村晋介	○		○	○	
	データ処理とデータ解析Ⅰ	1	演習			1		*2 *3	石崎龍二	○	○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅱ	1	演習			1		*2 *3	石崎龍二	○	○	○		
	社会調査実習Ⅰ	2	実習		2			半期2特開選修開講	複数担当科目	○		○	○	
	社会調査実習Ⅱ	2	実習		2			半期2特開選修開講	複数担当科目	○		○	○	
	情報数学	2	講義		2			*3	石崎龍二	○	○	○		
	プログラミング概論	2	講義		2			*1 *3	石崎龍二	○	○	○		
	地域社会ネットワーク	地域社会学A	2	講義	2				*1	福本純子	○		○	
		地域社会学B	2	講義		2				福本純子	○		○	
コミュニティ論		2	講義		2				阪井裕一郎	○		○	○	
都市社会学		2	講義		2				陸 麗君		○	○	○	
地域社会分析法A		2	講義		2			*2	阪井裕一郎	○	○	○	○	
地域社会分析法B		2	講義		2				宋 珉鎭(非常勤)	○		○		
地域社会分析法C		2	講義		2			*2	美谷 薫		○	○		
公共社会学特講A		2	講義		2				三田知実(非常勤)		○	○	○	
公共社会学特講B		2	講義		2				令和3年度は非開講	○		○		
地理学				2					美谷 薫	○	○	○		
地理学概論	2	講義		2			*1	美谷 薫	○	○	○			
地方自治論	2	講義		2			*1	美谷 薫	○	○	○			
地域計画論	2	講義			2			美谷 薫	○		○			
アジア国際共生	国際社会学A	2	講義		2			*1	佐野麻由子	○		○		
	国際社会学B	2	講義		2				佐野麻由子	○		○		
	国際政治学	2	講義	2				*1	岡本雅享	○		○	○	
	多文化社会論	2	講義		2			*1	岡本雅享	○		○	○	
	世界地理	2	講義	2					中里亜夫(非常勤)	○	○	○	○	
	東アジア関係史	2	講義		2				岡本雅享	○		○	○	
	韓国の社会と文化	2	講義	2					金 恩愛	○	○	○	○	
	中国の社会と文化	2	講義	2					陸 麗君	○		○	○	
	イスラム社会論	2	講義		2				阿部 哲(非常勤)	○		○		
	文化人類学A	2	講義		2				永吉 守(非常勤)	○		○		
	文化人類学B	2	講義		2				永吉 守(非常勤)	○	○	○		
	国際教育文化交流論	2	講義		2				高 仁淑(非常勤)	○		○		
	NPO論	2	講義		2			*2	佐野麻由子	○		○	○	
	国際協力論	2	講義	2					佐野麻由子	○		○	○	
アジア経済論	2	講義		2			*2	許 棟翰		○	○	○		
哲学要論	2	演習		2				神谷英二	○		○			
倫理学	2	講義		2				神谷英二	○		○			
日本史概論	2	講義		2				有谷三樹彦(非常勤)	○		○	○		
西洋史概論	2	講義		2				水井万里子(非常勤)	○	○	○	○		
法律学概論Ⅰ	2	講義		2				森脇敦史	○		○			
法律学概論Ⅱ	2	講義		2				森脇敦史	○		○			

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期(標準履修年次)				備考	担当教員名	DP1	DP2	DP3	DP4
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次						
教育社会学		2	講義			2			白坂正太(非常勤)		○	○	
社会福祉学概論Ⅰ		2	講義	2					細井 勇				
地域福祉論Ⅰ		2	講義		2				村山 浩一郎				
地域福祉論Ⅱ		2	講義			2			村山 浩一郎				
教育学概論B		2	講義	2					藤澤 健一	○	○	○	○
生涯教育論		2	講義		2				董 秋艶				
社会教育論		2	講義		2				太田 華奈(非常勤)				
対人心理学		2	講義	2					上野 行良				
Webデザイン演習		1	演習		1			*4	柴田 雅博				
情報ネットワーク論		2	講義		2			*4	柴田 雅博				
データベース論		2	講義		2			*4	柴田 雅博				
プログラミング演習		1	演習			1		*4	柴田 雅博				
情報検索システム論		2	講義			2		*4	柴田 雅博				
問題解決演習		1	演習		1			*4	複数担当科目				
人的資源管理論		2	講義		2			*4	井上奈美子				
キャリア論		2	講義			2		*4	井上奈美子				
組織マネジメント		2	講義			2		*4	井上奈美子				
ビジネス倫理		2	講義			2		*4	神谷英二				
個人情報法制		2	講義			2		*4	森脇敦史				
公共社会学研究Ⅰ		1	演習			1			複数担当科目	○	○	○	○
公共社会学研究Ⅱ		1	演習			1			複数担当科目	○	○	○	○
卒業論文		6	演習				6		複数担当科目	○	○	○	○

※ \* は総合人間社会コースの科目。

福岡県立大学人間社会学部公共社会学科（地域社会コース）カリキュラムツリー

<p>DP 1</p> <p>○現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。</p> <p>○社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的現象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。</p>	<p>DP 2</p> <p>○現代において求められる汎用的技能を身につけている。</p> <p>○先行研究や各種の資料を適切に収集する技能、社会的現象を適切に観察、調査、分析する技能を身につけている。</p>	<p>DP 3</p> <p>○現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。</p> <p>○人間・社会の諸問題について、根拠に基づいて公共性の観点から論理的に整理することができる。</p> <p>○人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。</p>	<p>DP 4</p> <p>○異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。</p> <p>○人間・社会の諸問題への深い関心のもと、問題解決に向け、主体的に学習を続ける力を身につけている。</p> <p>○人間・社会の諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働することができる。</p>
--	---	---	--

3・4年次

	DP1	DP2・3	DP1・3・4	DP1・2・3・4	DP1・3・4	DP1
	公共社会学基礎論	社会調査・情報処理	地域社会ネットワーク	アジア国際共生	関連科目	
3年次	公共経済学 社会学の分析法B 福祉社会学 社会変動と社会問題 集合行動論 CSR（企業の社会的責任）論	データ処理とデータ解析Ⅰ データ処理とデータ解析Ⅱ	地域社会学B 地域社会分析法A 地域社会分析法B 地域社会分析法C 公共社会学特講A 公共社会学特講B 地域計画論	文化人類学A 文化人類学B 国際教育文化交流論 NPO論 アジア経済論	哲学要論 倫理学 法律学概論Ⅰ 法律学概論Ⅱ 教育社会学 地域福祉Ⅱ	プログラミング演習 情報検索システム論 キャリア論 組織マネジメント ビジネス倫理 個人情報法制

2年次

社会学史Ⅰ	社会学史Ⅱ	社会学の分析法A	現代社会論A（ジェンダー・世代）	現代社会論B（情報社会学）	現代社会論C（情報社会と法）	家族社会学A	家族社会学B	社会病理学	仕事の経済学	暮らしの経済学
社会調査の設計	社会統計学Ⅰ	社会統計学Ⅱ	質的調査法	社会調査実習Ⅰ	社会調査実習Ⅱ	情報数学	プログラミング概論			
コミュニティ論	都市社会学	地理学概論	地方自治論							
国際社会学A	国際社会学B	多文化社会論	東アジア関係史	イスラム社会学						
日本史概論	西洋史概論	地域福祉Ⅰ	生涯教育論	社会教育論	Webデザイン演習	情報ネットワーク論	データベース論	問題解決演習	人的資源管理論	

1年次

社会学概論	公共性の社会学	社会政策論	社会心理学	人格心理学	社会福祉学概論Ⅰ	教育学概論B	対人心理学
社会調査法	データ分析の基礎						
地域社会学A	地理学						
国際政治学	世界地理	韓国の社会と文化	中国の社会と文化	国際協力論			

1年次

全学共通科目 DP1・2・3・4 教養科目： 人文科学／社会科学／自然科学／総合科目 （社会科学のうち、学科の必修） 社会学A	社会学B	基礎科目： 必須外国語／選択外国語／情報処理／健康科学／基礎ゼミ／発展ゼミ	全学横断型科目 DP1・2・3・4
---	------	--	-------------------

凡例

学科必修科目	学科選択必修科目	その他は選択科目
総合人間社会コース専門教育科目		

# 公共社会学科専門教育科目 カリキュラムマップ

新カリキュラム版

授業科目の区分と科目名		単位		授業 方法	開講 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	備考
		必修	選択							
基 幹 科 目	社会学概論	2		講義	1	○		○		
	社会学史Ⅰ	2		講義	2	○				
	社会学史Ⅱ	2		講義	2	○				
	公共性の社会学	2		講義	1	○		○		
	社会学の分析法A		2	講義	2	○		○		
	社会学の分析法B		2	講義	3	○		○		
	集合行動論		2	講義	3	○		○		
	CSR（企業の社会的責任）論		2	講義	3	○		○		
	NPO論		2	講義	3	○		○	○	
	社会心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	人格心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	公共社会学研究Ⅰ	1		演習	3	○	○	○	○	
	公共社会学研究Ⅱ	1		演習	3	○	○	○	○	
	卒業論文	6		演習	4	○	○	○	○	
現 代 社 会 課 題	現代社会論A（ジェンダー・世代）		2	講義	2	○				
	現代社会論B（情報社会論）		2	講義	2	○		○		
	現代社会論C（情報社会と法）		2	講義	2	○		○		
	家族社会学A		2	講義	2	○		○		
	家族社会学B		2	講義	2	○		○		
	福祉社会学		2	講義	3	○		○		
	社会病理学		2	講義	2	○		○		
	社会変動と社会問題		2	講義	3	○		○		
	社会政策論		2	講義	1	○		○		
	公共経済学		2	講義	3	○	○	○		
	仕事の経済学		2	講義	2	○	○	○		
	暮らしの経済学		2	講義	2	○	○	○	○	
地 域 社 会 ネ ッ ト ワ ー ク	地域社会学		2	講義	1	○		○		
	環境と災害の社会学		2	講義	3	○		○		
	コミュニティ論		2	講義	2	○		○	○	
	都市社会学		2	講義	2		○	○	○	
	地域社会分析法A		2	講義	3	○	○	○	○	
	地域社会分析法B		2	講義	3	○		○		
	地域社会分析法C		2	講義	3		○	○		
	公共社会学特講A		2	講義	3		○	○	○	
	公共社会学特講B		2	講義	3	○	○	○	○	
	地理学		2	講義	1	○	○	○		
	地理学概論		2	講義	2	○	○	○		
	地方自治論		2	講義	2	○	○	○		
地域計画論		2	講義	3	○		○			
ア ジ ー	国際社会学A		2	講義	2	○		○		
	国際社会学B		2	講義	2	○		○		
	国際政治学		2	講義	1	○		○	○	
	多文化社会論		2	講義	2	○		○	○	
	世界地理		2	講義	1	○	○	○	○	
	東アジア関係史		2	講義	2	○		○	○	

ア 国際 共生	韓国の社会と文化		2	講義	1	○	○	○	○	
	中国の社会と文化		2	講義	1	○		○	○	
	イスラム社会論		2	講義	2	○		○		
	文化人類学A		2	講義	3	○		○		
	文化人類学B		2	講義	3	○	○	○		
	国際教育文化交流論		2	講義	3	○		○		
	国際協力論		2	講義	1	○		○	○	
	アジア経済論		2	講義	3	○		○	○	
社会 調査 ・ 情報 処理	社会調査法		2	講義	1		○	○		
	データ分析の基礎		2	講義	1		○	○		
	プログラミング概論		2	講義	2	○	○	○		
	社会統計学Ⅰ		2	講義	2		○	○		
	社会統計学Ⅱ		2	講義	2		○	○		
	社会調査の設計		2	講義	2		○			
	質的調査法		2	講義	2		○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習	3	○	○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習	3	○	○	○		
	情報ネットワーク演習		1	演習	2		○	○		2023年度から開設
	マルチメディア論		2	講義	2		○	○		2023年度から開設
	地理情報システム論		2	講義	3		○	○		2024年度から開設
	関 連 科 目	社会調査実習Ⅰ		2	実習	2	○		○	○
社会調査実習Ⅱ			2	実習	2	○		○	○	
情報数学			2	講義	2	○	○	○		
哲学要論			2	講義	3	○		○		
倫理学			2	講義	3	○		○		
日本史概論			2	講義	2	○		○	○	
西洋史概論			2	講義	2	○		○		
法律学概論Ⅰ			2	講義	3	○		○		
法律学概論Ⅱ			2	講義	3	○		○		
教育社会学			2	講義	3	○	○	○		
社会福祉学概論Ⅰ			2	講義	1					社会福祉学科開設科目
地域福祉論Ⅰ			2	講義	2					社会福祉学科開設科目
地域福祉論Ⅱ			2	講義	3					社会福祉学科開設科目
教育学概論B			2	講義	1	○	○	○	○	
生涯教育論			2	講義	2					人間形成学科開設科目
社会教育論			2	講義	2					人間形成学科開設科目
対人心理学			2	講義	1					人間形成学科開設科目
Webデザイン演習			1	演習	2					総合人間社会コース
情報ネットワーク論			2	講義	2					総合人間社会コース
データベース論			2	講義	2					総合人間社会コース
プログラミング演習			2	演習	3					総合人間社会コース
情報検索システム論			2	講義	3					総合人間社会コース
問題解決演習		1	演習	2					総合人間社会コース	
人的資源管理論		2	講義	2					総合人間社会コース	
キャリア論		2	講義	3					総合人間社会コース	
組織マネジメント		2	講義	3					総合人間社会コース	
ビジネス倫理		2	講義	3					総合人間社会コース	
個人情報法制		2	講義	3					総合人間社会コース	



公共社会学科 カリキュラムツリー

○:必修科目 ★:1・2年生選択必修科目 ☆:3年生選択必修科目 ( )は再掲

新カリキュラム版

領域	区分1	区分2	1年	2年	3年	4年	
基幹科目	社会学の基礎・公共性の考え方を学ぶ	社会学(必修コア)	○社会学概論 ○社会学A(教養科目)	○社会学B(教養科目)	○社会学Ⅰ ○社会学Ⅱ		
		公共性・組織・社会心理	○公共性の社会学 人格心理学 (対人心理学)	社会学の分析法A (対人心理学)	○社会学Ⅰ ○社会学Ⅱ	☆NPO論 CSR(企業の社会的責任)論	社会学の分析法B 集合行動論
現代社会課題	社会現象を多角的に捉え分析する	家族・ジェンダー			○公共社会学研究Ⅰ ○公共社会学研究Ⅱ	○卒業論文	
		福祉・社会問題		★家族社会学A 現代社会学A(ジェンダー,世代)	家族社会学B 社会学の分析法A ジェンダー論(教養科目)	(地域社会学分析法A) (地域社会学分析法B)	
		情報社会		★社会学病理学 現代社会学B(情報社会学)	(社会学の分析法A) 現代社会学C(情報社会学と法)	★福祉社会学 社会学の分析法B	★社会変動と社会問題
		経済・社会政策	社会政策論	経済学(教養科目)	★暮らしの経済学 都市社会学	仕事の経済学 コミュニティ論	(アジア経済論) 公共社会学
地域社会ネットワーク	地域を社会的に捉え分析する	地域・都市	★地域社会学	都市社会学	○社会学Ⅰ 社会学の分析法A	社会学の分析法B 環境と災害の社会学	
	地域を行政学・地理学的に捉え分析する	特講			公共社会学特講A	公共社会学特講B	
アジア国際共生	アジアを軸にグローバルな視点で社会の現状と課題を考える	自治・住民参加		★地方自治論		地域社会学分析法B 地域計画論	
		地理学	地理学 (世界地理)	★地理学概論		★地域社会学分析法C (地理情報システム論)	
社会調査・情報処理	社会調査・情報処理の基礎と方法を学ぶ(社会調査士・上級情報処理士)	社会と開発	国際協力論	★国際社会学A	国際社会学B		
		政治・経済	★国際政治学	政治学(教養科目)		☆アジア経済論	
		文化と歴史	韓国の社会と文化 中国の社会と文化	★多文化社会学論	東アジア関係史	国際教育文化交流論	
		人類学・宗教・地誌	世界地理	イスラム社会学論	宗教学(教養科目)	文化人類学A 文化人類学B	文化人類学B
関連科目	いろいろな見方・考え方を学ぶ	社会調査総論	○社会調査法	★社会調査の設計			
		統計・データ解析	○データ分析の基礎	統計学(教養科目)	○社会統計学Ⅰ 社会統計学Ⅱ	☆データ処理とデータ解析Ⅰ ☆データ処理とデータ解析Ⅱ	
		質的調査		質的調査法		(文化人類学B)	
		社会調査実習		社会調査実習Ⅰ	社会調査実習Ⅱ		
関連科目	データサイエンス・プログラム	情報処理	数学概論(教養科目) 情報科学(教養科目)	○プログラミング概論 情報数学	情報ネットワーク演習 マルチメディア論	地理情報システム論	
		歴史・哲学・倫理	哲学(教養科目)	日本史概論	西洋史概論 / (東アジア関係史)	倫理学	哲学要論
		教育・心理	教育学概論B	対人心理学	社会学概論	生涯教育論	教育社会学
		法律	法学(教養科目)	憲法(教養科目)	(現代社会学C(情報社会学と法))	法律学概論Ⅰ	法律学概論Ⅱ
関連科目	キャリアマネジメント・プログラム	社会福祉	社会福祉学概論Ⅰ (社会政策論)	地域福祉論Ⅰ	地域福祉論Ⅱ	情報検索システム論	
		データベース論		Webデザイン演習	情報ネットワーク論	プログラミング演習 (個人情報法制)	
		キャリア論		問題解決演習	キャリア論	組織マネジメント	
		人的資源管理論		人的資源管理論	ビジネス倫理	個人情報法制	
教職課程	教職に必要な知識・方法を学ぶ	教育学概論B		教育史	教育課程論	教育の方法と実践	
		教師論		特別の実践を必要とする子供の理解	(教育社会学)	教育方法と情報技術	
				総合的な学習の時間と指導法	道徳教育B	キャリア論(進路指導)	
				特別活動	生徒指導論B	教育相談	
						情報と職業	
		発達心理学Ⅰ-A		教育心理学概論	社会科教育法Ⅰ	社会科教育法Ⅱ	
					公民科教育法Ⅰ	公民科教育法Ⅱ	
					情報科教育法Ⅰ	情報科教育法Ⅱ	
						教育実習事前事後指導(中高)	教職実践演習(中高)
					学校インターンシップ	高校教育実習 中学校教育実習	
基礎教育科目	学びの基礎をつくる	教養科目(人文科学・社会科学・自然科学・複合領域)、基礎科目(外国語(必須・選択)・情報処理・健康科学・基礎ゼミ・発展ゼミ)					



DP1	現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。
	社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的現象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。
DP2	現代において求められる汎用的技能を身につけている。
	先行研究や各種の資料を適切に収集する技能、社会的現象を適切に観察、調査、分析する技能を身につけている。
DP3	現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。
	人間・社会の諸問題について、根拠に基づいて公共性の観点から論理的に整理することができる。
	人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。
DP4	異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。
	人間・社会の諸問題への深い関心のもと、問題解決に向け、主体的に学習を続ける力を身につけている。
	人間・社会の諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働することができる。